

葬られた原発報道

01

朝日新聞は報道機関なのか。
(東京・築地の東京本社。撮影
／編集部)



東京電力福島第一原発事故からもう少して9年が経とうとしている。あの破滅的な事故から私たちは十分な教訓を引き出せていないのではないか。そして、その一因には、貴重な「吉田調書」をスクープしながら、あっさり記事を取り消した朝日新聞社に問題があったのではないか。当時の動きを検証し始めたワセダクロニクルに、朝日新聞社から驚くべき郵便が届く。

ワセダクロニクル編集長 **渡辺 周**
(わたなべ まこと)

再び 記事を封じ込める 朝日新聞

【特集】

朝日新聞と
ジャーナリズム

2019年11月28日付の、1通の配達証明郵便がワセダクロニクル(以下、ワセクロ)に届いた。表書きには「ワセダクロニクル編集部 御中 渡辺周さまあて」、裏面には「朝日新聞社広報部」とある。

配達証明郵便

朝日の広報部から一体何の用件

だろうか。封を開けると、タイトルには太字でこう書かれていた。「未公表原稿の公表中止を要求します」
本文には、ワセクロの二つの記事について「ただちに貴サイトから削除するよう求めます」とある。二つの記事とは、私がシリーズで書いている「葬られた原発報道」

の中のものだ。

①「幻の紙面が問うた『福島第一原発事故の宿題』(19年11月11日付)のうち、朝日が掲載しなかつた特別報道部長名の解説

②「『危機管理人』の登場」(19年11月12日付)のうち、朝日が公表しなかつた会社案内の一部

①の特報部長名の解説は、朝日

が吉田調書報道の真の目的について読者に説明するため用意したものの、お蔵入りになった。ワセクロはその「幻の原稿」を入手して報じた。

②の会社案内とは、吉田調書報道をスクープした記者2人が写真付きで掲載されているものだ。朝

日はこの会社案内も封印していた。